

《今月のトピックス》

- インフルエンザが警報終息基準値を下回っています。
- 風しんの流行が持続しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

3件(O157 VT1VT2 2件、O157 H7VT1VT2(無症状病原体保有者)1件)の報告がありました。うち2件は同一家族での症例でしたが、感染原因は調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

＜デング熱＞

1件の報告がありました。渡航先(フィリピン)での、蚊からの感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外(アジア諸国等)での感染です。

＜アメーバ赤痢＞

腸管アメーバ症5件の報告がありました。そのうち2件は異性間性的接触(どちらも国内での感染)による感染、もう2件は経口感染(1件はフィリピン、もう1件は国内での感染)で、残るもう1件は感染経路感染地域等不明でした。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞

1件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞

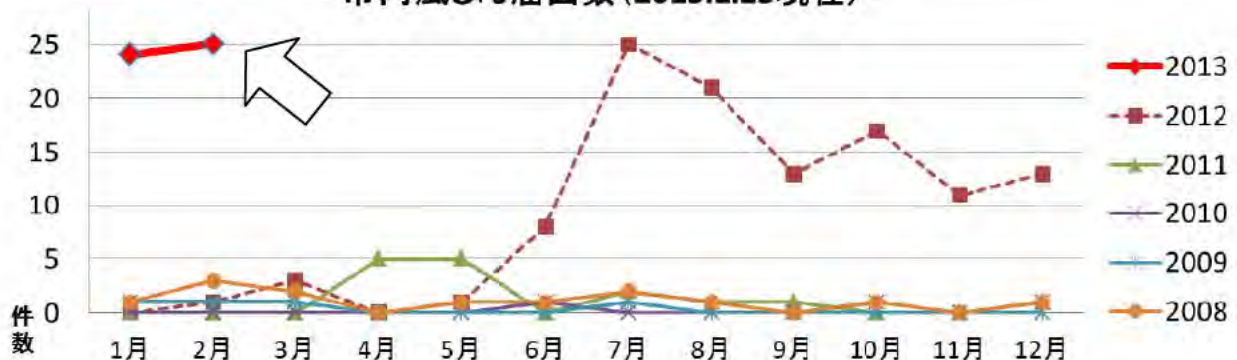
25件(男性21件、女性4件)の報告がありました。女性1件を除いてすべて予防接種歴が無いか確認できませんでした。昨年6月以降風しんの流行が続いており、今年に入っても多くの報告が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています*。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

市内風しん届出数(2013.2.25現在)



定点把握疾患

平成25年1月28日から平成25年2月24日まで(平成25年第5週から平成25年第8週まで。ただし、性感染症については平成25年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第5週	1月28日～2月3日
第6週	2月4日～2月10日
第7週	2月11日～2月17日
第8週	2月18日～2月24日

1 患者定点からの情報

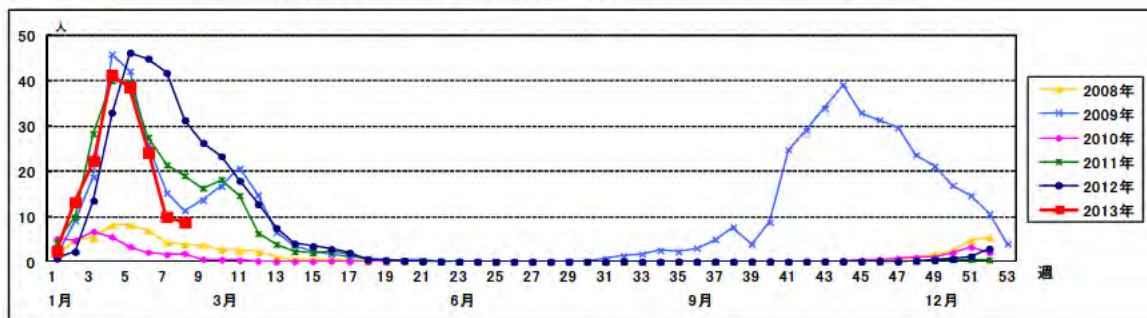
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<インフルエンザ>

第8週に市全体で定点あたり8.72となり、警報終息基準値(10.00)を下回りました。ただ、区別では現在も警報レベル、注意報レベルの区があり、注意が必要です。第8週の迅速キットの結果はA型89.8%、B型10.2%、AB型ともに陽性0.0%でした。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果(2月27日現在)では、AH3亜型が93.7%とほとんどを占めており、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたインフルエンザウイルスについて国立感染症研究所でワクチン株との抗原性解析(HI試験)を行ったところ、AH3亜型株、AH1pdm09型株、B型(山形系統)株ではすべて2管差以内でした。なお、一般的にHI価4倍(2管差)以内でワクチン株と類似しているといわれています。また、同じく国立感染症研究所で実施された薬剤感受性試験では、市内で検出されたAH3亜型株、AH1pdm09型株、B型(山形系統)株とも、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対しての感受性低下は認めませんでした(2月25日現在)。

◆ [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#) ◆ [インフルエンザ臨時情報](#)



<感染性胃腸炎>

第8週では6.12と落ち着いていますが、施設内等での集団発生は現在も報告されているため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆ 横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆ 横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinj/>

<性感染症>

1月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が2件でした。

<基幹定点週報>

全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第8週では0.49と減少傾向です。横浜市でも第5週1.33、第6週1.00、第7週1.00、第8週0.00、とやや落ち着いてきましたが、まだ多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症18件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件が報告されました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点53件(鼻咽頭ぬぐい液52件、ふん便1件)、内科定点16件(鼻咽頭ぬぐい液15件、ふん便1件)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点7件(鼻咽頭ぬぐい液4件、髄液、直腸ぬぐい液、血液各1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ36人、気道炎13人、発疹症2人、胃腸炎、流行性耳下腺炎各1人、内科定点はインフルエンザ13人、気道炎、胃腸炎、関節痛各1人、眼科定点は急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎各1人、基幹定点は脳柄脊髄炎、脳症、エンテロウイルス・水痘感染疑い各1人でした。

3月8日現在、小児科定点のインフルエンザ患者23人からインフルエンザウイルスAH3(以下Inf-AH3)型、2人からインフルエンザウイルスB(以下Inf-B)型、内科定点のインフルエンザ患者9人と気道炎患者1人からInf-AH3型、インフルエンザ患者1人からInf-B型が分離されています。

3月8日現在、小児科定点のインフルエンザ患者23人からインフルエンザウイルスAH3(以下Inf-AH3)型、2人からインフルエンザウイルスB(以下Inf-B)型、内科定点のインフルエンザ患者9人と気道炎患者1人からInf-AH3型、インフルエンザ患者1人からInf-B型が分離されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から6件、定点以外の医療機関等からは2件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から8件で、A群溶血性レンサ球菌が4件、黄色ブドウ球菌が2件、インフルエンザ菌および肺炎球菌が1件検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(2月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	2月			2013年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	6	2	1	15	3
菌種名						
赤痢菌					1	
腸管出血性大腸菌			2			3
チフス菌					2	
不検出	0	6	0	1	12	0

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	2月			2013年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	8	2	5	11	6	13
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌 T1					1	
T6				1		
T4	3			4		
T28	1			1		
T B3264				1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			2	
バンコマイシン耐性腸球菌		1			1	
インフルエンザ菌	1			1		1
肺炎球菌	1			1	2	
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌	2			2		
結核菌			5			10
不検出	0	0	0	0	0	0

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】